氏名：廣田 千恵子
所属：北海道大学
専門分野：文化人類学
発表タイトル：モンゴル国カザフ人社会における饗応の社会的意義―5 世帯の事例調査を手がかりとして―
要旨：
本発表の目的は21世紀現在のモンゴル国カザフ人社会における饗応の社会的意義について、西部バヤン・ウルギー県在住のカザフ5 世帯を対象とした饗応の実施状況に関する調査結果をもとに明らかにすることである。
居住地 ・職業・家族構成の異なる5 世帯は、いずれも中規模以上の饗応を開くために借金をしたことがある。この事実は現代の饗応が財の再分配や経済的相互扶助といった機能を失っていることを意味する。しかし、饗応には次の3 つの社会的意義が確認された。
第1 に、全ての饗応はカザフ文化伝承に関わっている。人々は饗応にて自身に課せられた社会的役割を果たすことで、ジェンダー規範や敬意の作法、食のしきたりなどを継承している。とくに、小規模の饗応は民主化以降の宗教的習慣の定着にも影響している。
第2 に、家族、親族、姻戚など関わりの深いメンバーが集まる中小規模の饗応は、人の一生に関わる哀歓を共有する場であり、民主化以降はカザフスタンなど離れた土地を往来する人々を繋ぐ交流の場となっている。とくに、パンデミック下の行動制限による不安とストレスは、人々に饗応の精神面への影響を実感させ、積極的な饗応の開催を促している。
第3 に、大中規模の饗応は社会的期待に沿った形で開催 ・参加されることによって、家庭内、地域内 ・外など様々なコミュニティに社会的調和をもたらす。その調和が取れているか否かは「恥」と「恨み」という概念によって判断される。